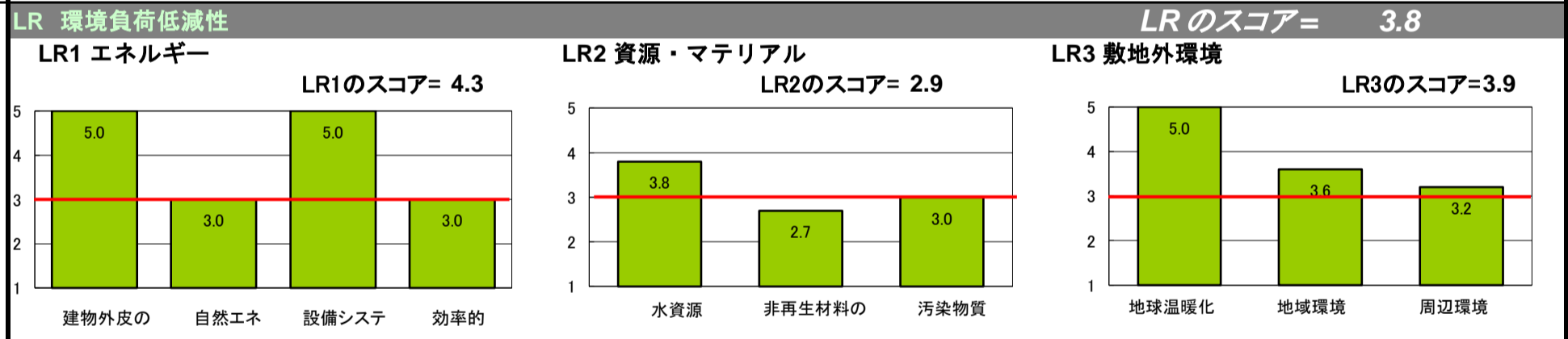
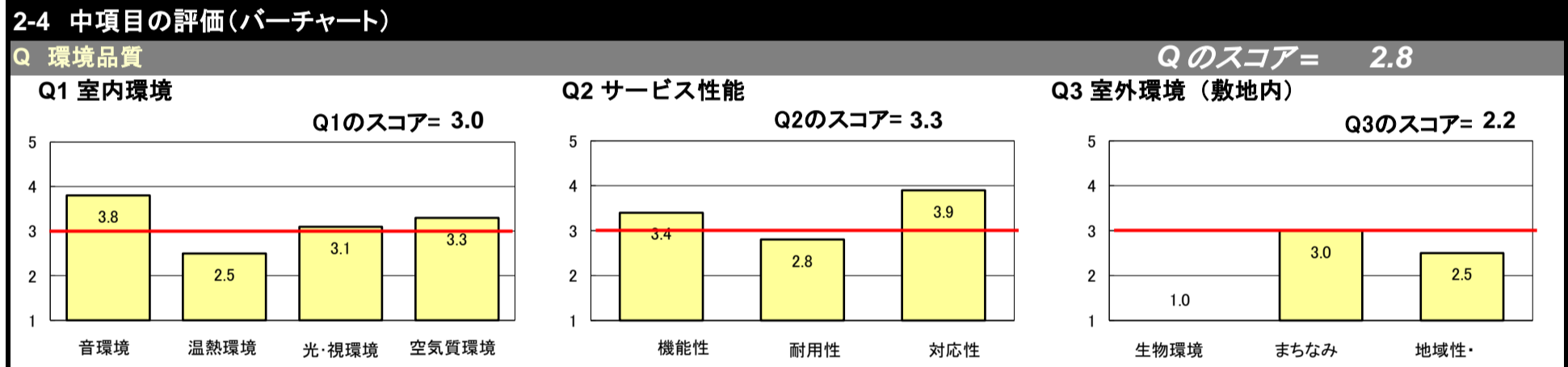
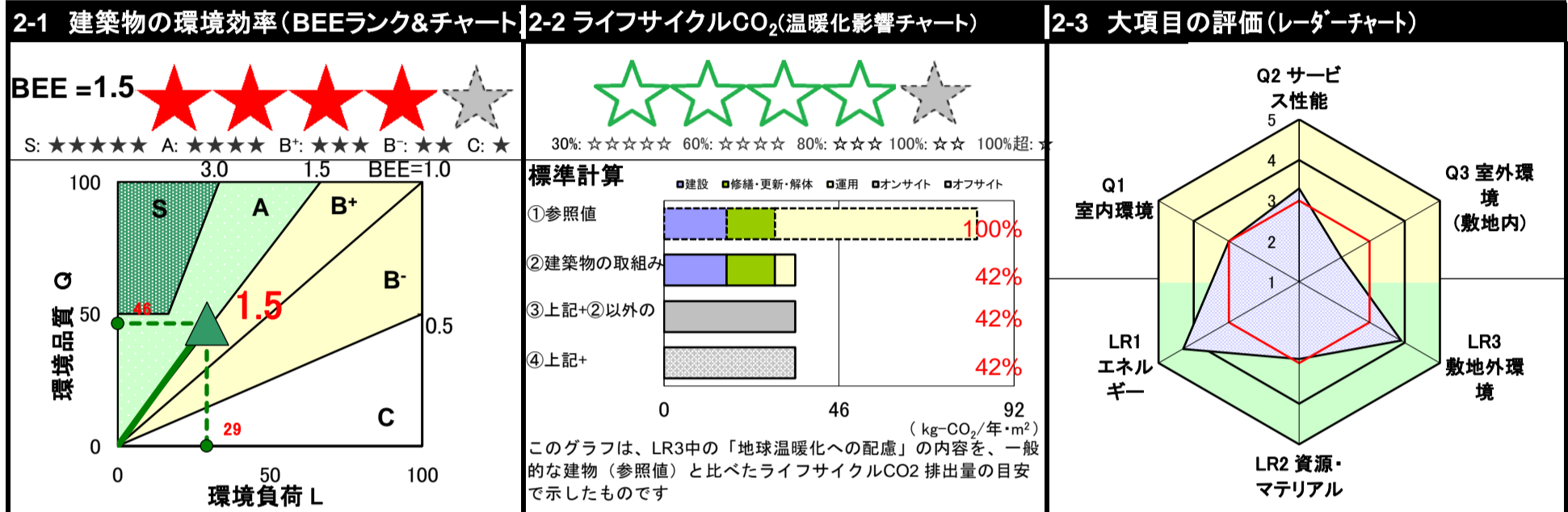


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	コニカミノルタメカトロニクス三河工場	階数	地上3階
建設地	愛知県豊川市八幡町東赤土2番地	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条地域	平均居住人員	450人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年2月 予定	評価の実施日	2021年1月18日
敷地面積	30,371 m <sup>2</sup>	作成者	角田崇
建築面積	8,981 m <sup>2</sup>	確認日	2021年1月18日
延床面積	19,510 m <sup>2</sup>	確認者	角田崇



### 3 重点項目

<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>5.0</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>28.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{建築面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分			住居・宿泊部分		全体		
			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点		重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1	開口部遮音性能	遮音性能T-2 Dr=40	0.1	3.8	0.15	-	-	-	3.8	
2	界壁遮音性能		3.0	3.0	0.40	-	-	-	-	
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		0.4	4.6	0.40	-	-	-	-	
4	界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	0.60	-	-	-	-	
1.3 吸音										
床(タイルカーペット)、天井(岩面吸音板)の二面に吸音材を採用										
床										
天井										
4.0										
0.20										
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御										
1	室温	断熱性能の高い外皮材料を使用	0.3	2.5	0.35	-	-	-	2.5	
2	外皮性能		0.5	3.2	0.50	-	-	-	-	
3	ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.38	-	-	-	-	
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3.0										
3.0										
1.0										
0.30										
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1	昼光率	細かな照明制御、リモコンで調整可能	0.2	3.1	0.25	-	-	-	3.1	
2	方位別開口		0.3	1.8	0.30	-	-	-	-	
3	昼光利用設備		3.0	1.0	0.60	-	-	-	-	
3.2 グレア対策										
1	昼光制御	3.0	3.0	0.40	-	-	-	-		
3.3 照度										
3.0										
3.0										
0.15										
3.4 照明制御										
3.0										
5.0										
0.25										
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策										
1	化学汚染物質	各種排気との離隔距離6m以上を確保	0.2	3.3	0.25	-	-	-	3.3	
			0.5	3.0	0.50	-	-	-	-	
			3.0	3.0	1.00	-	-	-	-	
4.2 換気										
1	換気量	0.3	3.3	0.30	-	-	-	-		
2	自然換気性能	3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
3	取り入れ外気への配慮	3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
4.3 運用管理										
1	CO <sub>2</sub> の監視	全館禁煙	3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	
2	喫煙の制御		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	
3.0										
5.0										
0.50										
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性	独自	0.4	3.4	0.40	-	-	-	3.4	
2	高度情報通信設備対応		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	
3	バリアフリー計画		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性										
1	広さ感・景観(天井高)	天井高3.0m、屋外の情報を得られる窓の設置 執務室の1%以上のリフレッシュスペース、自販機の設置	0.3	4.3	0.30	-	-	-	-	
2	リフレッシュスペース		3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	
3	内装計画		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計	0.3	3.0	0.30	-	-	-	-		
2	維持管理用機能の確保	3.0	3.0	0.50	-	-	-	-		
3.0										
3.0										
0.50										
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1	耐震性(建物のこわれにくさ)	②	0.3	2.8	0.31	-	-	-	2.8	
2	免震・制震・制振性能		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数										
1	躯体材料の耐用年数	②	3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		0.3	2.7	0.33	-	-	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		-	2.0	0.23	-	-	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-	
2.4 信頼性										
1	空調・換気設備	②	0.1	2.8	0.19	-	-	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
3	電気設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	

3 対応性・更新性				0.2	3.9	0.29	-	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高4.5m以上を確保	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率<0.1	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			工場:10000N/m <sup>2</sup> 以上,架構用・地震用の割増はなし	3.0	4.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.38	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			断熱性能の高い建材の採用	3.0	5.0	0.22	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.12	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI <sub>m</sub> ≤0.6	3.0	5.0	0.46	-	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	2.9
1 水資源保護				0.1	3.8	0.15	-	-	-	3.8
1.1 節水			自動水栓、節水コマ、節水型便器の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.6	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		雨水利用	3.0	4.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上材が容易に分別可能な構造	3.0	4.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.9
1 地球温暖化への配慮		①	高効率な設備機器を採用し、CO2を低減	-	5.0	0.33	-	-	-	5.0
2 地域環境への配慮				0.3	3.6	0.33	-	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止			燃焼設備の設置なし	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	必要対策量以上の雨水流出抑制対策を実施	-	4.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	十分なスペースの駐車・駐輪場確保、渋滞緩和に配慮した導入計	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
2	振動	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		屋外サイン照明を設置せず、周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	-	5.0	0.70	-	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>5.0</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11
			外構緑化: 28.9%/建物緑化: 0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	豊川市内に建設される工場である。 空地进行積極的に緑化し、雨水利用、節水器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮している。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務室の内装は吸音材を使用し、室内の音環境に配慮している。</li> <li>・給気は排気口との離隔を十分な距離を確保し、全館禁煙として、室内空気質環境を良好に保つための配慮をしている。</li> </ul>
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務室は、ゆとりある天井高、リフレッシュスペースの確保等により、居住者の快適性に配慮している。</li> <li>・高い階高を確保し、空間のゆとりに配慮している。</li> </ul>
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空地部分を積極的に緑化し、緑による良好な景観形成、及び生物環境の保全に配慮している。</li> <li>・高温排熱機器を屋上に設置し、温熱環境の向上に配慮している。</li> </ul>
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・断熱性能の高い建材を採用し、建物外皮の熱負荷抑制に配慮している。</li> <li>・LED照明等の高効率な設備機器を導入している。</li> </ul>
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水器具の採用や雨水利用により、水資源保護に配慮している。</li> <li>・ユニット部材の採用や躯体と仕上材が容易に分別可能な構造とし、非再生性資源の使用量削減に配慮している。</li> </ul>
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分なスペースの駐車・駐輪場を確保し、渋滞緩和に配慮した交通計画としている。</li> <li>・屋外サイン照明を設置しない等、周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。</li> </ul>
その他	-